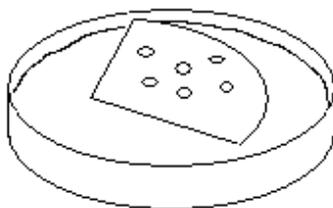


<実験> オブラートを用いた消化の実験

【目的】オブラートを用いて、アミラーゼがデンプンを分解することを確認する

【準備】オブラート、ろ紙、ヨウ素液、シャーレなど

- 【方法】
- (1) オブラートを少し口に含み、口の中で溶けることを確認する。
 - (2) シャーレに水を 5mm 程度の深さになるように入れ、ヨウ素液を 4~5 滴加えてかき混ぜる。オブラートの成分はデンプンなので、青紫色になる。
 - (3) オブラート 1 枚の 4 分の 1 程度を、しわにならないようにシャーレ内の液に浮かべる。
 - (4) ろ紙を穴あけパンチで打ち抜いたものを 6 枚用意し、そのうち 3 枚はそのまま、残りの 3 枚は舐めてだ液をつけ、それぞれオブラートの上に静かに並べて変化を観察する。
 - (5) だ液をつけたろ紙をのせたところは、数分後に穴が開き、ろ紙が下に落ちる。オブラートがだ液中のアミラーゼで加水分解されたことがわかる。水温を変えて、最適温度を調べるのも面白い。



【参考】オブラートは、デンプンから作られる半透明の薄い膜である。

オブラートの語源は、ラテン語のオブラトゥス<oblatus>(楕円形)からきたもので、ジャガイモデンプン紙<potato starch paper>または食べられる紙<eatable paper>とも呼ばれる。